

# 怪童と投げ合ったエースの孫 10人のチームで最速145<sup>キロ</sup>

Sota Kawaguchi

## 川口 颯大

投手 / 清真学園 (茨城) 2年



### profile

- 生まれ / 2006年8月20日、千葉県銚子市
- サイズ&投打 / 182<sup>センチ</sup>、82<sup>キロ</sup>。右投左打
- 球歴 / 双葉小2年で双葉マリナーズ (軟式) に入団し、4年から投手。清真学園中時代は軟式野球部に所属し、3年時に県選抜入り。清真学園では1年春からエース
- 変化球 / スライダー、チェンジアップ、カットボール
- 速投&50<sup>キロ</sup>走 / 100<sup>キロ</sup>。6秒3
- 好きな選手 / 大谷翔平 (エンゼルス)
- 好きな食べ物 / オムライス

photographed by 田村直子

今夏1、2年生だけの部員わずか10人で戦った鹿嶋市の進学校に、ダイヤモンドの原石がいる。6月に練習試合で自己最速145<sup>キロ</sup>をマーク。中学時代から軟式の県選抜で高い評価を得ていた右腕が、一層、注目を集める存在となった。「そんな感覚はなかったんです。スピードガンがどうなのか」と謙虚に話すが、「来年の夏には150<sup>キロ</sup>を出したいです」と志は高い。

恵まれた素質を秘める「サブプレッド」だ。母方の祖父・藤本忠勝さん(79)は1961年の夏、銚子商のエースとして甲子園の土を踏み、2回戦で怪童と言われた尾崎行雄を擁する浪商(現大体大浪商)に1-2。優勝校に惜敗したものの、堂々の投げ合いを演じたのだ。

そんな「おじいちゃん」からも指導を受けている。「筋肉があると思っます」と自負する下半身は実にたくましく、腰回りは103<sup>センチ</sup>。強じんな体をフルに使えるように、相撲の股割や腰割など股関節を柔らかくするトレーニングを、柔道部出身の越川正悟部長(22)を交えた3人でこなしている。「下半身と上半身の連動性を高めるため。リリースポイントを前にするためです」と説明。それがかなえば、「真つすぐの力強さと押し込める重さ」というセールスポイントに、さらに磨きがかかるだろう。

明るい未来が待っているが、進路については決めかねている。父・二夫さん(57)は薬剤師。同校OBで昨夏、バッテリーを組んだ兄・翔平さん(18)も医科大に進学しているだけに、自分も医療系の道に進むか、あるいは野球を選んでプロを目指すか。「これから考えていきます」と言う。その前に、秋、春、夏と3つの公式戦が待っている。今夏の茨城大会は1回(麻生)戦で8三振を奪いながら、味方の6失策もあり8回8失点(自責3)で逆転負け。「三振を取れるピッチャーになりたい。(1試合)15奪三振したいです」。選手10人だけのチームを、うなるような豪速球で引っ張る。

### Coach's EYES

杉本 貴海 監督 (25)



「4月に着任してすぐに、『いい体をしているし、すごい球を投げるな』と思いました。指にかかるのとスピンの利いた球を投げます。フォームを試行錯誤していますが、体、特に下半身が使えれば、まだまだ伸びると思います。140<sup>キロ</sup>台をコンスタントに出せる、安定した投手になってほしいですね」

### 捕手転向の1年生が支える

2年生8人で昨秋、今春は波崎柳川、波崎と3校連合を組んだが、1年生2人を加え夏は単独チームで出場。マスクをかぶったのは郡真吾①だ。川口と同じ中学の軟式時代は投手、遊撃手で、捕手転向に「ビックリしました」と言う。「(川口の兄で捕手だった)翔平さんと先輩から聞いたり、プロの試合を見て学んでいます」と熱心に励む。「中学の時に比べて球は速くなっているし、球種も増えて全然違います。リズム良く投げてもらえれば」と右腕を全力でサポートする。